

装束書

中

内閣文庫	
番號	和 15437
冊數	3 (2)
函號	153 440

内閣文庫			
函	二	三	三
架	冊	號	類
	一	五	和
	四	三	書
	七		

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



駄履

表と羅紗裏ハ布袴と多ク入る事と
甲の糸止を月止と云ひしと云
の耐きと綿の入る事と月止と云
34

鞭

牽馬子海子持子製作法を
記す馬相油の皮袋子
海又床机をとり子差海持を
作り

馬抄

當籠

馬籠金紋入標銅あり

牽馬の當を刀あり

引耐

牽馬よりしきり麻糸を月止
ハ或又糸を限り

馬相油

革袋に入持たる又當籠より

床机

普通のもろ床机を月止
は或床机ハ素人子との
月又替のり胡麻と

ソノハハニテ床机アリ或家方アリ
極床机を以テ高附シテ有ルモノ也

茶履

普通の茶履は袴を履くより茶履を履く

袴別ニ有リハ一ト下迄を履ク事也又下迄を履ク事

足駄

足駄は袴の下のより履又ハ袴履也
子御等ハ袴履ノ事

供の事アリハ此履也又ハ袴履也
此履ハ袴履ノ事

袴履

杖

此の杖を以テ今日四月十日と是を杖を以テ

茶子御

此も茶子御の事
享和元年八月西宮中史と云ふ

人得ニ以テ花ノ衣優詔持職官中一持職官也
たり是朝より出はせつゝ此履は是つゝ此履の事也

供鳥

或ハ之を以テ茶履と云ふ事ハ是ハ茶履の事也

有り

供禮

二午之午を以テ茶履と云ふ事ハ是ハ茶履の事也

茶子御

普通の茶履は袴を履くより茶履を履く

此も茶子御の事

水桶

茶舟尚とて桶を拵らるる家も有り

左の列の大概なり其外亦子の格なり

より其を異にする事一たるは川原

流の馬具をアらる事拵る事

新也

小人騎馬装束

烏帽子 長小袷

烏帽子の半一糸袍の事一法を以て

長小袷とて烏帽子の中一なり元結なり

おほしき法なりと長一袷一たる

元結を以て袷の二重の事なり其の烏帽子も小
袷なり其の法も長小袷とて當一の
小袷なり

御着

白糸御着の法紐を用ひ其外も

より其又ハ吹本なり一日晴るれば其た乳

小糸袍

こゝろ花やたす
寛政五年の
川

布より作る事普通の小糸袍の作りは

袖を一幅半裾を長くするゆゑ小糸袍と

いふ事候はれは云々すしつゝ花や

りる花や波ハ豹文又は流波とすゆは

豹文は波をこゝろめさうしはるる一箇所の波は制禁あり
此今に御用ひはるるのゆゑに流文より花よりゆゑに

胸紐はゆはるる事候はれは

むすし事
むすし事
之流法を云々

曆年目

標
同年目法
花や
御用

曆年目上下の事子絶はれは

り花やのよも
たはくはるる事候はれは
寛政の事大に候はれは

よりは曆年目より候はれは
子甲より候はれは

下着

前より候はれは
襟より候はれは

子甲より候はれは

帯

右の帯より候はれは

扇

帷紙

鞆

しるし主の字一たる馬をりて一鞆物なり
尻のふと切諸之切古と品布りて法
断ぬりて一類より大目の梵字と云々

鏡

江波糸鞆梅物と云ふ馬の鞆も月也逆鞆
より

書

江波糸のりて一馬をりて一鞆物なり
法より

鞆

普通の子文字を逆より下
又鞆のやうにして一法を以てして一法も是

白紙

白糸組違と云ふ糸より

後帯

白布或紙布たりて一法
鞆よりて法も又頭より

白紙より一法

巾着

法より

帯

小袖のり

帖紙

白檀紙

扇

虫摺墨蟹目地紙福つても或るも又香るに汝

也

着履

蘭茶菓子油のり 尻切のり 云々

又小

杖

普通の糸子油のり 漆金紙柄のり た

る糸子油のり お筆一筆一筆 毎のり かくる位のり たるり 漆金紙

カキ油のり 漆金紙柄のり のり 漆金紙柄のり

紫竹のり 漆金紙柄のり 紙のり 漆金紙柄のり

漆のり

漆のり 漆金紙柄のり 漆のり 漆のり

漆のり 漆金紙柄のり 漆のり 漆のり

漆のり 漆金紙柄のり 漆のり 漆のり

漆のり 漆金紙柄のり 漆のり 漆のり

小袖

夏と云ふは布を深き裾の間に用ひし

下着

信長等様又の御衣

帯

小袖より

笠履

草履より又足半を引下

扇

帖紙

葉骨を解き貝比紙を又為る紙

由紙

杖

又よ竹母よふ柄のはえは実を柄の正を
かす中紙より巻

大小

是作りの

は半の紙をえりし之を巻
久の紙を巻の多し帯は半より丸

是作りの多し是作りの多し是作りの多し
より丸の多し是作りの多し是作りの多し

束帯前



右表若は倍々、ソ思ふ常のこころ、くは
 しくも、若者の思顧りののり、くは、出独若者
 幸一子御る、くは、くは

衣冠前



常之衣冠の草子一未廣と持りし

束帯後



衣冠後



隨身



細纒

絳

尻鎧

胡篋
矢ヲ七第
七凡



布衣も同之事
紋有り

将衣



大紋も同之事
帯袍の如く紋有り
胸紐

直垂



上下
長上下子細
袴ノ裾素袍ノ如シ



素袍



十徳



白張
退紅
射

非常装束

頭巾

鉢ハ節甲のこく吹込一足腰のそよこしーと之様と糸と中をとり二段一足し

有ゆれし子巾着

まうちのほろくくもむくーハ
かろ花火の半を半一なり

糸に就て守白星をとりて
言符の記後角あの手はして

羽織

羅紗又半と月の子巾着ー

羽織下袴のの半を月の子巾着ー
美入るて下羅紗の半を月の子巾着ー
半を月の子巾着と半を月の子巾着ー
半を月の子巾着と半を月の子巾着ー

足袋

常の耐るとかおなるしとや 自信の外に
の強るなり 足袋のふ必し見らま されの非
先年 是を足袋といふは ありや又の しくる 御座り せよ
ま しくも 特異釋と稱し 今 是を 釋り 今
の 義家朝臣 權を 是の 御座り 今 是を 釋り 今
の 義家朝臣 權を 是の 御座り 今 是を 釋り 今

刀

子 〇 十 一





